

小学校第3学年総合的な学習の時間指導計画

1 単元名 「目の不自由な人がくらしやすい東大崎にしよう」 ～視覚障害者のくらしについて理解し、共に生きよう～

2 単元の目標

視覚障害について調べたり疑似体験をしたりすることを通して、視覚障害者の生活や、障害者を支える制度及び道具について理解し、視覚障害者の思いや自分たちにできることは何かを考えるとともに、学んだことを自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

3 単元の指導と評価の計画

(1)単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①視覚障害者の生活について知るとともに、障害者を支える制度及び道具があることを理解している。 ②疑似体験や調査活動を、目的や対象に応じて適切に実施している。 ③視覚障害者の生活や思いに対する認識の高まりは、視覚障害者に対して、自分は何ができるかを探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①普段の生活と疑似体験で感じたことのギャップを基に課題を設定し、解決の見通しを持っている。 ②視覚障害者がくらしやすい地域とはどのような地域か、その方々のために自分たちができることは何かについて必要な情報を収集し、種類に合わせて蓄積している。 ③課題解決に向けて、困っていることや自分たちにできることなどの観点に合わせて情報を整理し考えている。 ④自分たちが考えた内容について、相手や目的に応じて分かりやすく表現している。	①視覚障害者の生活や思いに関心を持ち、自己の生活を見詰め直し、進んで探究的な学習に取り組もうとしている。 ②疑似体験や調査活動を通して得た知識や、友達の考え、ゲストティーチャーの意見を生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③地域との関わりの中で自分ができることを見付けようとしている。

(2)単元の指導計画（25 時間扱い 本時 6 /25 時間）

段階	時	小単元名	○主な学習活動・予想される児童の反応 ※指導上の留意点	評価規準			評価方法
				知	思	態	
課題の設定	1	目の不自由な人の生活について考えよう	○パラリンピック（水泳・ブラインドサッカー）の写真や動画から、目の不自由な人が競技を行えるようにするための工夫について気付く。 ・背中を棒のような物で押している。 ・ボールから音が出ている。 ・ゴーグルを付けている。 ○国語3年下「パラリンピックが目指すもの」を読み、障害者も自分たちと同じようにより良い生活を送ろうとしていることに気付き、目の不自由な人のくらしについて話し合う。 ※くらしやすさを向上させるための制度及び道具などを考えさせることで、課題への関心を高める。	①			発言、ワークシート、振り返りシート
	2		○目が不自由な人の生活を想像したり、目隠しをして教室や廊下を歩いたりする体験を通して視覚障害者の生活について考える。 ・やっぱり目が見えないと不便ことが多い。 ・目隠しして歩くと怖かった。		①		ワークシート、振り返りシート

			○目が不自由な人の生活について知りたいことや疑問に思うことを考える。 ・大変なことは何だろう？ ・外を歩くときに困ることは何？ ○知りたいことや疑問に思うことを調べるための方法について話し合う。 ※インターネットで調べるという考えが予想されるが，実感を伴う理解につながるかどうか考えさせ，多様な方法があることに気付かせる。				
情報の収集	3 ～ 5	アイマスク・白杖体験をしよう	○疑似体験を通して，その不便さを実感する。 ※社会福祉協議会へ講師派遣依頼をする。 ※目的を明らかにした上で，体験を実施する。 ○目の不自由な人がくらしやすい東大崎のために調べたいこと（仮の課題）を設定する。（個人） ・盲導犬ってどのような訓練をしているの？ ・点字について詳しく知りたい。 ・目が不自由な人はどんなところで困っているのだろう。 ・自分たちに出来ることはないかな。 ※課題を設定するときの視点を知らせることで，探究する価値のある問いを設定させるようにする。 <課題を設定するときの視点> ・「はい」「いいえ」で答えられるような問いにしない。 ・「どのような」「どうすれば」など多くの答えや考えが出てくるような言葉を使いながら設定する。	②		②	知 ② 行動観察 態②ワークシート，振り返りシート
課題の設定	6 本時	目の不自由な人の生活について考えよう	○個人で立てた仮の課題を再検討し，似た課題ごとにグループを作り，本課題を設定する。 ※クラゲチャートを使い，課題を作っていく。 ・盲導犬を連れた人に会ったときにはどうすればよいのか。 ・点字ブロックはどのような所にあるとよいのか。 ・目の不自由な人たちのために，自分たちにできることは何か。 ・生活をサポートするために自分たちができるちょっとした行動。 ・目の不自由な人がくらしやすい地域にするために工夫できることはないか。		①		ワークシート，振り返りシート
	7		○グループごとに課題解決の計画を立てる。 ※教室掲示を活用し，探究の過程を確認する。 ※インターネット上の情報だけでなく，インタビューや図書資料など多様な情報収集の手段があることを知らせる。		①		ワークシート，振り返りシート
情報の収集	8 ～ 12	目の不自由な人の生活について調べよう	○設定した課題についてグループごとに調べる。 ・盲導犬とのくらしについて調べよう。 ・学校の周りにある点字ブロックを調べてみよう。 ・目の不自由な人が不便に感じていることについてもっと調べよう。 ・目の不自由な人の生活を便利にする工夫について調べよう。 ※グループごとに情報収集をさせる。		②	①	思②ワークシート 態①行動観察，振り返りシート
整理・分析	13		○集めた情報を種類ごとに整理する。 ※整理の観点 ・公式なデータ ・目が不自由な人から聞いた意見 ・福祉の専門家から聞いた意見 ・自分や友達の考え など		③		行動観察，振り返りシート

	14 ～ 15	目の不自由な人との関わり方について考えたことを伝えよう	○情報の整理や分析の方法を考え、集めた情報から何が言えるか、目が不自由な人たちがくらしやすい東大崎にするにはどうすれば良いか、自分たち考えを検討する。 ※思考ツールを活用し、比較、分類、類推、関連付けなど、思考の可視化を図る。		③		ワークシート、振り返りシート
	16		○目が不自由な人がくらしやすい東大崎にするための考えを伝えるために、どの情報を選択すれば良いか考える。 ・困っていることを伝えることから始めよう。 ・盲導犬との接し方について知ってもらおう。 ・自分たちなりのアイディアを発信してみよう。		③		行動観察、振り返りシート
まとめ・表現	17		○福祉協議会の方に向けて、自分たちの考えを発表するという相手意識や目的意識を明確にし、まとめ・表現するための計画を立てる。 ※今回は Keynote を使ってまとめることとし、プレゼンテーションにまとめるときのポイントについて全体で学ぶ機会とする。			②	行動観察、振り返りシート
	18 ～ 22		○目の不自由な人がくらしやすい東大崎にするために、自分たちが伝えたいことをまとめる。 ※話し合いをしたり、文章に表現したりする中で、自分の考えをより明らかにしたり、新たな課題を見付けたりできるようにさせる。 ※説得力を持って伝えるための根拠となる資料と方法を選択するようにさせる。	③		①	知③ワークシート 態①ワークシート、振り返りシート
	23		○プレゼンテーションや発表原稿を推敲する。 ※自分たちが伝えなかったことが正しく伝わるかという視点で推敲させる。		④		成果物、振り返りシート
	24		○福祉協議会の方に向けて発信する。 ※オンラインでの発表も検討する。			③	発言、振り返りシート
振り返り	25	これからの生活や行動について考えよう	○単元の学習を振り返り、目が不自由な人との関わり方について考えたことを振り返りシートにまとめ、意見を交流する。 ※目が不自由な人に対する考え方が、学習の前と後でどう変わったか、学習を通して新たに気付いたことや分かったことは何か、学習した結果新たに見えてきた課題は何か、などの視点を示した上で考えを記入させる。 ※意見交流や話し合いを通して、障害があることは「不便ではあるが不幸ではない」ということに気付かせるようにする。	③			振り返りシート

4 本時の計画

(1) 目標

目の不自由な人のくらしについて、グループで互いの考えや思いを伝え合うことを通して、単元を通したグループ内における課題を設定する。

(2) 指導に当たって

本時は、個人で設定した仮の課題を基に、クラゲチャートを活用し、グループとしての課題を設定する時間となる。課題意識を高めたり探究するにふさわしい課題にしたりするために、「目の不自由な人がくらしやすい東大崎にするには」「自分（たち）にできることはないか」など視点を示したり、声掛けをしたりするようにする。グループの課題にうまく取り入れられなかった個人の課題については、選んだ課題を解決する中で解決するものもあったり、早く解決したときに別の課題について取り組んでも良いことを伝えたりすることで、児童に安心感や満足感を与えるようにする。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問◆予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
導入 3分	1 前時の振り返りと本時の学習課題の確認をする。 グループごとに課題を設定しよう。	◎前時の活動を振り返らせることで、その時の気づきや思いを想起させる。 ◎個人の仮の課題を基に、グループで本課題を設定することを伝える。	
展開 37分	2 グループで課題を練り上げる。 ○クラゲチャートを使って個人の課題を基にしながらグループとしての課題を決めましょう。 ①足部分に個人の課題を入れる。 ②課題を練り上げる視点を踏まえながら、グループとしての課題について話し合いをする。 ③決まった課題を頭部分に記入する。 ◆みんなの意見をまとめるのが難しいな。 ◆調べたあと、どうしたいかも考えた方が良さね。 4 設定した課題を確認する。 ○話し合った結果を、発表しましょう。 ＜予想される課題＞ ◆目が見えない人が安心して外を歩ける町ってどんな町か。 ◆目が見えない人を助ける人はどんな人で、どうやって助けているのか。 ◆目が見えない人とどのように関わればよいか。 ◆盲導犬を連れている人に会ったら、どう接すれば良いか。 5 次時の方向性を示し、選択する。 ○課題解決のために調べる方法は様々ありますが、みなさんはどのような方法で調べたいですか。 ◆調べる方法を考えてみよう。 ◆詳しい人に話を聞いてみたいな。 ◆何ができるか考えてみよう。	◎個人の課題は付箋に書かせ、貼らせる。 ◎課題を練り上げる視点を示すことで、深い学びになる課題を設定させる。 ＜視点＞ ・目の不自由な人がくらしやすい東大崎にするには。 ・自分（たち）にできることはないか。 ◎調べて終わりとなりそうな課題になりそうなグループには、「調べて何がしたいか」「くらしやすい東大崎づくりにどうつながるのか」などと問い返すことで、課題に深みを持たせるようにする。 ◎自分たちでは出てこなかった課題に出会ったときは、付け加えても良いことを伝えることで、広い視野でテーマと向き合えるようにさせる。 ◎「インターネットで」という意見が予想されるが、調べる方法は多様にあることと、対象に直接触れることの大切さを伝えることで、実感を伴う学習になるようにさせる。 ◎次時の見通しを持たせることで、主体的な活動を継続していけるようにさせる。	【思】 仮の課題を集めて話し合い、互いの思いや考えを出し合い共有する中で、「目の不自由な人が暮らしやすい東大崎について考え、発信しよう」という単位を通した課題を設定している。 (ワークシート・振り返りシート)
終末 5分	6 本時の振り返りをする。 ○今日の活動を通して考えたことや、次の時間に向けて考えていることについて書きましょう。	◎観点を示して振り返りをさせることで、自己の学びを自覚させたり次時への意欲を持たせたりする。	

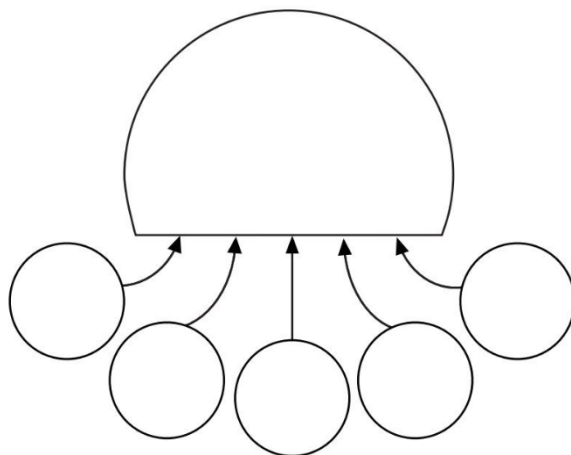
(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準
思考・判断・表現	仮の課題を集めて話し合い，互いの思いや考えを出し合い共有する中で，「目の不自由な人がくらしやすい東大崎について考え，発信しよう」という単元を通した課題を設定している。

(5) 板書計画

グループごとに課題を設定しよう。

- ・目の不自由な人がくらしやすい東大崎するには
- ・自分（たち）にできることはないか



学びの足あとカード

3年 氏名()

1	月 日	だん かい 段 階
	/	か だ い せ っ て い じ ょ う ほう し ゅ う し ゅ う 課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現
まとめ (学んだことや、進みぐあいなどを書こう)		
次の時間にやること (次にやること、やるとよいと思うことを書こう)		
ふり返り (今日考えたこと、次に向けて考えていることなどを書こう)		

2	月 日	だん かい 段 階
	/	か だ い せ っ て い じ ょ う ほう し ゅ う し ゅ う 課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現
まとめ (学んだことや、進みぐあいなどを書こう)		
次の時間にやること (次にやること、やるとよいと思うことを書こう)		
ふり返り (今日考えたこと、次に向けて考えていることなどを書こう)		

小学校第4学年総合的な学習の時間指導計画

1 単元名「エコプロジェクト～大谷の海の環境を守るために～」

2 単元の目標

大谷海岸のごみについて調べたり，大谷海岸の環境保全に向けた活動に協働で取り組んだりすることを通して，環境を守り続ける人々の意図や願いを理解し，環境保全に対する具体的な取組について考えるとともに，自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

3 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①大谷海岸にあるごみと自分たちの生活には関わりがあることを理解している。 ②大谷海岸にあるごみの状況を捉えるために，ごみの種類に着目しながらフィールドワークを実施している。 ③大谷海岸のごみと自分たちの生活には関連があるとの理解の深まりは，自分たちの地域を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①大谷海岸でのごみ調査を基に，ごみが環境に与える影響について問題を見付け出し，課題を設定している。 ②大谷の海の現状や海洋ごみが環境に与える問題を捉えるために必要な情報について，調査する対象に応じた方法を選択し収集している。 ③ごみが環境や生態系に与える影響や環境保全に役立つ情報について収集した情報を分類・整理し，考えている。 ④大谷の海の環境を守るための取組についての自分たちの考えを，目的や相手に合わせて分かりやすくまとめている。	①大谷の海の環境を守るという目的に向け，自分自身で設定した課題の価値を理解している。 ②大谷の海の環境を守るための取組について伝えるために，友達の考えを生かしながら，協働して課題解決に向けて取り組んでいる。 ③自分と大谷海岸や地域の人々とのつながりに気付き，地域のためにできることを考えて積極的に関わろうとしている。

(2) 単元の指導計画（35 時間扱い 本時 12／35）

段階	時	小単元名	○主な学習活動 ・児童の反応 ※指導上の留意点	評価規準			評価方法
				知	思	態	
課題の設定	1	大谷海岸にあるごみについて調べよう。	○海に親しむ集いで行った海岸清掃について振り返る。その際，活動時の写真を見せることで，想起させやすくする。 ・みんなで砂浜をきれいにできた。 ・結構ごみがあってびっくりした。 ※「どのようなごみがあったのかな？」と問うことで，児童に活動で持ち帰ったごみを詳しく見てみたいという思いを持てるようにさせる。	①			発表，ワークシート，振り返りシート
	2・3		○海岸清掃で拾ったごみの調査を行う。 ＜内容＞分別したごみの重さを量る。 分類したごみ毎に写真をとる。 ・ガラスの破片が結構あった。 ・ペットボトルやビニール袋などのプラスチックがあった。 ○ごみを分別して感じたことを整理する。（個人）※ロイロノート ・こんなにごみがあるとは思わなかった。	①			行動観察，ワークシート，振り返りシート

課題の設定			・ポイ捨てはしないでほしい。 ・環境によくないプラスチックなどがたくさんあった。				
	4		○今後の学習の見通しを立てる。 ※ごみ調査②に至るまでの児童の思いが大切となるので、児童に揺さぶりを掛けながら切実感を引き出す。 ※「実は前に日にごみ拾いが…」 ※「このまま、学習を進めますか？」 「ごみ調査は十分ですか？」 ・できればもう一度ごみ調査に行きたい。 ・ごみ調査の仕方を知りたい。（専門家）	①			ワークシート, 振り返りシート
	5		外部講師による講話① ○海に親しむ集いでお世話になったNP ○法人浜わらすの方の講話を聞く。 ※普段から海に関わる仕事をしていて、その中で感じる「海洋ごみ」についての現状や思いを伝えてもらう。 ※海に親しむ集いで児童が見えてこなかったであろう内容（ごみの種類や分別の仕方など）について話していただくことで、ごみ調査②の活動につなげる。	①			発表, ワークシート, 振り返りシート
	6 ～ 9		○大谷海岸のごみ調査②を行う。 ・自分たちの手で、今度はどのくらいごみが集まるのかしっかり調べたい。 （活動2h, 分類1h, まとめ1h）	②			行動観察, ワークシート, 振り返りシート
	10		○ごみ調査②を行って感じたことを整理する。（個人） ※体験活動後の振り返り ※ワークシートをロイロノートに保存	①			ワークシート, 振り返りシート
	11		外部講師による講話② ○海に親しむ集いでお世話になったNP ○法人浜わらすの方に、ごみ調査の結果を伝える。 ※普段からごみ拾いをしているが、ごみはなくなることはないこと、そして海はつながっており、世界的な視点でも、海洋ごみが問題になっていることを話していただき、次時の活動につながりを持たせる。	①			ワークシート, 振り返りシート
	12 ※本時	大谷海岸から環境を考えよう	○海洋ごみの現状について知る。 ※世界各地に広がる海洋ごみの現状を、映像資料を通して見せることで、大谷の海で起きていることが世界でも起きていることに気付かせる。 <予想される児童の反応> ・びっくりした。 ・世界の海にもこんなにゴミがあるとは思わなかった。 ※「浜わらすの方のお話や大谷海岸や世界の海のごみ現状を知って、一番問題だと思うことはどのようなことですか」と問うことで課題意識を高めさせる。		①	①	発表, ワークシート, 振り返りシート

			<予想される児童の反応> ・海洋ごみがたくさんあること ・ペットボトルや発砲スチロールなど生活ごみが多いこと ・海洋ごみが生き物に影響を与えること ・外国製品のごみもあること ・環境に悪いごみ（プラスチックなど）があること 【児童が設定すると思われる課題例】 ・プラスチック問題（ごみの種類に特化） 「プラスチックは環境にどのような影響をあたえるのだろうか」 ・海の環境悪化による生態系への影響 「ごみは海にくらす生き物にどのような影響を与えるのだろうか」 ・海洋ごみが海にもたらす影響 「ごみは海にどのような影響を与えるのだろうか」 ・ごみが減らない理由 「大谷海岸にあるごみはどこからやってくるのだろうか」 ・ごみを減らす取組 「ごみを減らすにはどうすればよいのだろうか」				
情報の収集	13	大谷海岸から環境を考えよう	○個人で課題を設定した後に、似ている考えごとにグルーピングする。 ○課題を調べるための方法について具体的に考える。 ※「みんなの疑問を解決するためにどのようなことが必要ですか？」と問うことで、情報収集の方法について考えさせる。 ・インターネットや本を使って調べる。 ・漁師さんにインタビュー（電話なども可）する。 ※児童が目指す学習のゴールについて確認する。 （まとめ方、発表対象等）		②		行動観察, ワークシート, 振り返りシート
	14 ～ 19		○グループ毎に必要な情報を集める。 <児童がもとにするもの> ・海岸清掃で、個人でまとめた資料 ・浜わらすの方々からの資料 ・インターネットで検索した資料		②	②	行動観察, ワークシート, 振り返りシート
整理・分析	20 ～ 24		○グループごとに、調べたことをまとめる上で必要な情報を整理する。 <整理分析の観点> ・どの情報が一番必要か。 ・似ている情報はないか。 ・足りない情報はないか。 ・根拠は十分か。 ※必要に応じて再調査を行う。 ※思考ツールを活用する（K J法等）。		③	②	行動観察, ワークシート, 振り返りシート

まとめ	25 ～ 30	環境について調べたことを発信しよう	○テーマを基に調べたことを，構成を考えながらポスターにまとめる。 ※資料や写真の効果を考えながらまとめさせる。 ※発表原稿も作成し，ポスターを活用して発表できるようにさせる。 ※発表原稿が二次的情報をそのまま読むだけのようにならないように留意させる。（自分たちの言葉になっているか）		④	②	行動観察，ポスター，振り返りシート
	31 32		○ポスター，発表原稿の推敲を行う。 ※推敲する時間（2時間）		④	②	行動観察，ポスター，振り返りシート
表現	33 34		○大谷の海の環境を守るための取組について発表会をしよう。 ※可能であれば講師の方々を招待する。 大谷里海づくり協議会 NPO法人浜わらす ※グループに分かれてポスター発表会を行い，感想を伝え合う。（学級内） ※道の駅に児童の成果物を掲示する。			③	発表，行動観察，振り返りシート
振り返り	35		○発表会を振り返り，感想をまとめた り，新たな課題を見付けたりする。 ＜振り返りの観点＞ ・調べて分かったこと ・これから更に調べてみたいこと ・疑問に思ったこと ・自分たちにできること ・これから取り組んでいきたいこと 等	③		③	発表，ワークシート，自己評価，振り返りシート

4 本時の計画

(1) 目標

これまでの学習を振り返りながら，自分が探究していきたい内容について考え，課題を設定する。

(2) 本時の指導に当たって

児童はこれまでに，大谷海岸でのごみ調査やごみの分別作業を行い，地元の海のごみ問題について学んできた。児童が，ごみの重さを量ったり種類毎に分別したりしたところ，プラスチックや缶，ガラスなどが多いことが分かった。さらに，普段目にする機会の少ない漁業関係のごみが多いことにも気付くことができた。これらのごみは，自分たちの生活につながりが深いものであり，自然に返りにくいものでもあることから，児童の中には，ごみが生態系や環境に与える影響について懸念を示している児童もあり，環境への関心を高めながら学習に取り組んでいる様子がうかがえる。しかし，海的环境や生態系への影響がどれほど深刻なもので，どのように行動していけばよいかといった具体的な手立てについて考えている児童は少ない。そこで，本時では，他地域の環境課題を映像資料で提示し，大谷の海で起こっている問題が世界的にも起こっている事象でもあることを示すことで，児童の環境問題への意識を更に高めさせ，課題を設定する際の動機付けへとつなげたい。また，学習ファイルを使ってこれまでの学習を想起させたり，ICT機器を活用して考えを共有したりさせることで，児童が探究課題をより自分の事として捉えるための手立てとしたい。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応	◎指導上の留意点	評価
導入 5分	1 これまでの学習を振り返るとともに本時の流れを確認する。 2 本時の学習課題を確認する。	◎これまでに大谷海岸のごみ調査、講師の方に講話をいただいたことを確認する。 ◎本時は、これまでの学習を基に、環境を守るために調べていきたいことは何か考えていく(探究学習の課題を設定)ことを伝える。	
	環境を守るために調べたいことは何か考えよう。		
展開 35分	3 海洋ごみの現状について知る。 ○映像を見てどう思いましたか。どのようなものが映っていましたか。 ◆びっくりした。 ◆世界の海にもこんなにゴミがあるとは思わなかった。 ◆プラスチックやビニールなどの自然に返りにくいものが浮いていた。 ◆ゴミのまわりに生き物がいた。 4 これまでの学習(体験活動を含めて)を振り返りながら、調べていきたいことについて意見を出させる。 ○「浜わらす」さんのお話や大谷海岸の現状、世界の海のごみの様子を知って、みんなが一番問題だと思ったこと(気になったこと)はどのようなことですか。 ◆海洋ゴミがたくさんあること ◆ペットボトルや発砲スチロールなど生活ゴミが多いこと ◆海洋ゴミが生き物に影響を与えること ◆外国製品のごみもあること ◆環境に悪いゴミ(プラスチックなど)があること等 5 これから調べたい内容について探究課題を設定する。(個人) ○これから調べたい内容について探究課題を設定しよう。 【設定すると思われる課題例】 ○プラスチック問題(ごみの種類に特化) ・プラスチックは環境にどのような影響を与えるのだろうか。 ○海の状態悪化による生態系への	◎世界各地に広がる海洋ごみの現状を、映像資料を通して見せることで、大谷の海で起こっている海洋ごみの問題が世界でも起こっていることに気付かせる。 ◎大谷海岸でのごみ調査と関連付け、映像中のごみが生活につながりが深いものであり、自然に返りにくいものであることに気付かせる。 ◎生き物についても触れ、外部講師から講話をいただいた、ゴミは生態系に影響を与えることについても確認する。 ◎これまでの学びを蓄積した総合ファイル(ポートフォリオ)を基に、これから調べてきたい課題を決定させる。 ◎本質的な問いに迫るために、自分が一番関心を持っていること(調べたいという思いが強いもの)に絞ることを伝える。 ◎内容を選んだ動機の強さが、児童の今後の探究活動の持続性に関わるので、関心のある内容を選んだ理由についても書かせるようにする。 ◎内容を選ぶことが難しい児童には、これまでの学習で興味を持ったことについて声掛けを行いながら、自分の考えを表現できるように働き掛ける。 ◎「なぜ、どうして、どのような、どうすれば」などの言葉を入れるように声掛けをする。 ◎学習支援アプリ「ロイロ・ノート」に自分の考えを記入させ、提出させる。 ◎探究課題を立てることが難しい児童には、他の児童の探究課題をヒントにしながら考えるよう声掛けを行う。 ◎課題の設定が早く終わった児童には、どのように調べていけばよいか具体的な案	【思・判・表①】 ・大谷海岸でのごみ調査を基に、ゴミが環境に与える影響について問題を見付け出し、課題を設定している。(発表, ワークシート) 【態度①】 ・大谷の海の状態を守るという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。(発表, ワークシート)

	影響 ・ごみは海で暮らす生き物にどのような影響を与えるのだろうか。 ○海洋ごみが海にもたらす影響 ・海洋ごみは海にどのような影響を与えるのだろうか。 ○ごみが減らない理由 ・大谷海岸にあるごみはどのからやってくるのだろうか。 ○ごみを減らす取組 ・海洋ごみを減らすにはどうすれば良いのだろうか。 6 設定した探究課題を発表する。	を考えさせ、先の活動に見通しを持たせる。 ◎児童が設定する探究課題は、左記の5種類のいずれかになると想定する。テーマ毎のグルーピングについては、次時で扱う。 ◎課題の設定が途中でも、できたところまでのものを発表させる。	
終 末 5 分	7 今後の活動について考える。 ○これからの活動は、個人で行いますか。それともグループで進めますか。 8 本時の学習の振り返りを行う。	◎探究課題の解決に向けた方向性について、児童の意見を聞く。 ◎グループで進める方向になると想定されるが、個人で進めるほうが良いとの意見が多い場合には、できる限り児童の意向を聞きながら学習を進めるようにする。 ◎今日の学習の振り返りを行わせる。 ＜振り返りの観点＞ ・分かったこと ・難しかったこと ・これから頑張りたいこと 等 ※振り返りシートを活用（自己評価）	

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準
思考・判断・表現①	大谷海岸でのごみ調査を基に、ごみが環境に与える影響について問題を見付け出し、課題を設定している。
主体的に学習に取り組む態度①	大谷の海の環境を守るという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。

(5) 準備物

- ①教師：タブレット端末，プロジェクター
- ②児童：ワークシート

(6) 板書計画

エコプロジェクト～大谷の海の環境を守るために～

学習課題

【自分が一番問題だと思ったこと】

・

※選んだ理由

⇒

「問いストーリー」

・なぜ ・どのような

・どうして ・どうすれば

みんなの願いは・・・？

プロジェクターで
資料映像や児童の
考えを投影する。

(月 日)

4年 No. 氏名()

まとめ・表現

～メモ～

◆まとめ (今日の授業で分かったことや気付いたことを書こう)

◆次の時間のこと

(次の時間にやってみたいこと、
調べてみたいことを書こう)

◆ふりかえり・今日の課題をクリアできましたか？（自己ひょうか：◎・○・△）

中学校第1学年総合的な学習の時間指導計画

1 単元名「大和に学び、大和を知ろう」

2 単元の目標

大和町のまちづくりやそれに携わる人々について調査する活動を通して、地元の特徴や人々の思いを理解し、ふるさとの良さや課題、自分たちとの関わりについて考えるとともに、ふるさとのためにできることを考え行動しようとする。

3 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①大和町のまちづくりに関する取組とそれに携わる人々の思いがあることを理解している。 ②大和町の良さや人々の思いを理解するために、目的に応じて情報を収集したり、インタビューをしたりしている。 ③自分たちの関わりが大和町の活性化につながることを理解の深まりは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①大和町について、地域資源（自然・文化・歴史・人材・食・伝統工芸）を生かした取組や、携わる人々の思いから、地域の良さや町の課題を明らかにし、探究課題を設定している。 ②大和町の現状を捉えるために必要な情報について、手段を選択し多様な方法で収集している。 ③課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④大和町の活性化につながる取組について、調査結果や企画内容を、グラフや図、写真等を使って効果的に表現している。	①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自ら設定した課題の価値に気付き、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。 ②大和町について調べる活動体験を通して、他者の考えを生かしながら、協働して問題解決に取り組もうとしている。 ③大和町の活性化のために自分たちにできることを提案することを通して、積極的に社会に参画しようとしている。

(2) 単元の全体計画（20 時間扱い 本時 6・7 / 20）

段階	時	小単元名	○主な学習活動 ◆生徒の反応 ※指導上の留意点	評価規準			評価方法
				知	思	態	
課題の設定	(夏休み中)	(事前調査)	○大和町について、気になっていることや調べてみたいことを見付け、レポートを書き、大和町に対する興味・関心を高める。（社会・総合的な学習の時間課題） (例) ◆水害が多いのはなぜか ◆川の工事が進められているのはなぜか ◆交通の便が悪いのはなぜか ◆舞茸や伊達イワナが有名なのはなぜか ◆七ツ森や島田飴は全国でも有名か ◆吉岡宿はどんな町だったか ◆吉田地区、落合地区、鶴巣地区、吉岡地区の有名な物は何か等 ※夏休み明けに回収し、生徒の興味・関心を把握する。 ※生徒の興味・関心は、まちづくり・自然・文化・歴史・人材・食・伝統工芸・産業に分類されると予想。				

課題の設定	1	1 大和町のまちづくりやそれに携わる人々について知ろう。 (11 時間)	○夏休みの課題で出た個人の意見を基に、学級全体で情報を共有する。 (テキストマイニング、ウェビング) ※小学校時代に行った地域学習についてもウェビングに加えさせる。 ※自分の小学校区の特徴について情報を伝え合い、大和町には自分がまだ発見していない魅力があることに気付かせる。 ※教員も、生徒が知らないような、大和町の魅力の例を一つ挙げ、大和町に対する興味・関心を高めさせ、町をよく知る人から話を聞いてみたいという思いを持たせ、次時の講演会へとつなげる。 (例) 実は大和町は… ・2020 年度全国優秀自治体ランキング 第 1 位 ・2021 年度 // 第 2 位 ・大学がある→宮城大学 ・準絶滅危惧のグンバイトンボが発見されたことがある等	①			ワークシート、レポート、観察
	2・3		○大和町の歴史やまちづくりについての講演会に参加し、地域の専門家や役場の職員から話を聞く。 ※国恩記や大和町第五次総合計画について、町役場の方に講話をいただく。大和町が抱えている課題についても話していただく。 講師 吉岡宿本陣案内所から 2 名 まちづくり政策課から 2 名 ○感想を書く。 ※「過去のまちづくり」と「現在のまちづくり」について知り、より良い町にするために、中学生としてできることに取り組もうという思いを持たせ、課題の設定へとつなげる。	①			ワークシート
	4		○夏休みの課題や講演会を通して生まれた興味・関心を基に、どんなことを探究したいか、自分の考えや思いをまとめる。 ※生徒の記述を基に、教師側で探究グループ編成(案)を作成する。	①			
	5		○探究していきたいと思う内容が近いメンバー同士で、探究グループを作る。個人で取り組みたい場合は個人探究も認める。 ※探究グループ編成(案)を生徒に示し、最終調整を行う。 ※編成終了後からは、担任・副担任でグループを分担し、まとめ・発表まで指導・助言する。				
	6・7 本時		○夏休みの課題や講演会を通して生まれた興味・関心や疑問を整理し、個人の問いを作る。(ワークシート) (例) ◆交通の便が悪いのはなぜだろう？ ◆大和町をテーマにした映画が作られたのはなぜだろう？	①			ワークシート

		1 大和町のまちづくりやそれに携わる人々について知ろう。 (11 時間) ◆美しい七ツ森についてどれくらいの人を知っているのだろうか？ ◆大和町の工業団地にはどんな工場や企業があるのだろうか？ ◆ひだまりの丘公衆浴場が廃業になるのはなぜだろうか？ ○個人の問い基に，グループで意見を出し合い，グループとしての探究課題を設定する。（思考ツール） ※自分たちが本当に取り組んでいきたいと強く思える探究課題となるように，生徒の話合いを見守り，適宜支援する。 (例) ◆吉岡宿の歴史を未来のまちづくりに生かすためにはどうしたら良いだろう。 ◆七ツ森の自然を生かしてまちおこしをするためにはどうしたら良いだろう。 ◆佐藤忠良，原阿佐緒の作品の魅力を伝えるためには，どうしたら良いだろう。 ◆どうすれば伊達イワナや舞茸等の特産品を全国の人々に伝えることができるだろう。 ◆まほろば祭りや島田飴祭りに新たな風を吹かせるために，どのような取組ができるだろう。 ◆大和町の産業の特徴を生かした起業プランにはどのようなものが考えられるだろう。 ◆大和町の交通の便をより便利にするためには，どうしたら良いだろう。等				
情報の収集	8・9	○学習の見通しを持つために，課題解決に向けた調査計画を立てる。 ○書籍，資料，インターネットから情報を収集する。 ※個人のタブレット端末端末を利用する。 ※図書室はグループの代表 2 名まで。 ◆インターネットや図書室の本で十分情報が集められそうだと。 ◆この収集方法だけでは，不十分。 ※他にどうやって情報を集められるかをグループ毎に考えさせる。 ◆実際に，詳しい話を聞いてみたい。 ◆写真や資料を集めたい。 ◆どこに行けばいいかな。 ◆誰に聞けばいいかな。 ※インターネットで調べきれなかったことについてインタビューするために，質問項目をグループでまとめさせる。 ※事前に地域コーディネーターやボランティアなどの人材をリストアップしておく。（協働教育担当が持っているリストを活用する） ※連絡調整が必要な場合は，学年主任が窓口となって行う。			①	行動観察，ワークシート

	10 ・ 11		○地域の専門家や役場の職員等にインタビューを行い、必要な情報や資料を収集する。 ※直接インタビューに行くことができない場合は、電話、メール、ファックス、オンライン等を活用し、実施する。 ※複数グループのインタビュー先が同一の人物や団体である場合は、質問事項の精選を行う。回答までの時間を見越し次時を設定する。 ※データの蓄積は、総合的な学習の時間用ファイル、クラウドを活用する。	②	②		行動観察、ワークシート
整理・分析	12 ・ 13	2 大和をさらによい町にするための提案を考えよう。(2時間)	○収集した情報から、大和町をよりよい町にするための提案として必要な情報を吟味する。 ◆どちらの情報がより大切な。 ◆集めた情報を仲間分けしてみよう。 ◆この二つは似ている/違っている。 ◆足りない情報をもっと調べよう。 ◆タブレット端末を使ってみよう。 ※タブレット端末や思考ツールを活用させる。 ※他グループの学習の途中経過を参考にさせる。 ※一次情報、二次情報、三次情報の違いに触れ、信頼できる情報であるかを確認させる。 ※まとめ・表現での発信の方法も視野に入れながら、内容を吟味させる。		③	②	行動観察、ワークシート、資料
	14 ・ 15 ・ 16 ・ 17	3 大和をさらによい町にするために発信しよう。(6時間)	○グループで学習してきたことを基に、よりよい町にするための提案をまとめる。 ◆大和町の魅力を再発見できるような新聞にしよう。 ◆住民や町役場の方々に、中学生の自分が考えた提案を伝える新聞にしよう。 ◆どのようにまとめたら伝わるかな。 ◆写真や図、グラフを入れると効果的かな。 ◆他の教科でやったことのあるまとめ方でやってみようか。 ※まとめ方は、壁新聞、個人新聞、ポスター、プレゼンテーション、動画等グループの学習に合わせて選択させる。			④	行動観察、発表資料、ワークシート
まとめ・表現	18 ・ 19		○学級毎に探究発表を行う。 ※1グループの持ち時間を、発表、質問・感想、準備・片付けも含めて10分とし、2時間で発表会ができるようにグループ数を割り当てる。 ※地域の専門家や役場の職員にも聞いていただく。 ◆自分たちの考えを十分に伝えることができた。 ◆まだ十分ではなかったことがあったから、もう少し自分たちの提案や資料を改善したいな。 ※良いアイデアがあれば、今後の大和町のまちづくりに生かしてもらえるように伝える。 (例) ふるさとCMのアイデアとして、役場で展示、「広報たいわ」に掲載等 ※この単元の学習を通して、町の魅力に気付かせ、未来の町のために自ら関わっていこうという前向きな心を育みたい。(社会参画の心)			③	行動観察、発表資料、ワークシート

振り返り	20	4 これからの自分について考えよう。 (1時間)	○これまでの取組や地域の方々から学んだことを振り返り、これからの自分の生き方について考える。 ◆「大和町のまちづくりの提案」やってみておもしろかったな。 ◆「大和町のまちづくりの提案」難しかったけど、他の町でどんなまちづくりをしているかについても探究してみたいな。 ※今後も「探究的な学習」に取り組んでみたいという気持ちで学習を終える。	③			ワークシート
------	----	-----------------------------	---	---	--	--	--------

4 本時の計画

(1) 目標

大和町をよりよい町にするために、自分の考えを他者と共有し、グループとして探究する課題を設定する。

(2) 本時の指導に当たって

夏休みの課題や前時の大和町についての講話を通して、生徒は大和町について、個人の問いを持った。本時は、同じような考えを持つ生徒で探究グループを作り、探究課題を設定する時間である。自分たちの住む地域について真剣に探究していくことができる課題を設定させたい。グループの課題設定の場面では、互いの考えや思いをまとめていく難しさがある。この場面では思考ツールを活用して、個人の問いを発展させたり、複数の問いから一つの課題へと焦点化させたりしたい。また、自分の意見を伝えることが苦手な生徒には、教師、メンバーとの対話を通して少しずつ意見を伝えられるようにする。

(3) 指導過程 (6・7時間目/20時間)

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される生徒の反応	◎指導上の留意点	評価
導入 5分	1 前時の学習を振り返る。	◎前時の講話について振り返らせることで、大和町の魅力を発見していこうという気持ちを思い起こさせる。	
	2 「大テーマ×小テーマ」のグループ毎に机を組み、自己紹介し、リーダー、副リーダーを決める。	◎前時までに決定した1人～4人のグループで、少し間を取りながら机を組むよう伝える。 ※個人探究の場合は、個人メンバーで近くに座り、自己紹介をさせる。	
	3 本時の学習課題を確認する。		
	大和町をよりよい町にするために、グループの探究課題を決めよう！		
		◎本時は、個人の考えをグループの探究課題としてまとめることを伝える。	
展開 90分	4 グループの探究課題を決める。 ①自分が「気になること」を青色の付箋に記入する。 探究課題決定ワークシート1(1) (3分) ②グループのみんなの「気になること」についてまとめる。 探究課題決定ワークシート1(2) (10分)	・ 本時のワークシート, 10/5 に記入したワークシート, 付箋, ペンを配付する。 ◎第4時に記入したワークシートを基に書かせる。 ※考えが複数ある場合は、一つの考えを一枚の付箋に記入する。	【思・判・表①】 大和町について、地域資源(自然・文化・歴史・人材・食・伝統工芸)を生かした取組や、携わる人々の思いから、地域の良さや町の課題を明らかにし、探究課題を設定しているか。(ワークシート)

	③自分の「こうだったらいいな、こうしたいな」を赤色の付箋に記入する。 探究課題決定ワークシート 2(1) (3分) ④グループみんなの「こうだったらいいな、こうしたいな」についてまとめる。探究課題決定ワークシート 2(2) (10分) ⑤他のグループの話合いの途中経過を見て歩き、参考にする。(4分) ○他のグループがどのような話合いをしているか、見て歩き、参考にしましょう。 ⑥グループの探究課題について話合い、決定したら発表用のワークシートにペン書きする。 (15分) ○自分たちが本当に取り組んでいきたいと強く思える一つの問いに絞るようにしましょう。 ○次は、グループ毎に発表し、探究計画を立てます。では、休み時間です。 (5時間目終了 10分休憩)..... 5 完成したグループの探究課題をクラス全体に向けて発表する。 (10分) ○発表用のワークシートを全体に見せながら、発表して下さい。 6 グループの探究計画を立てる。 探究計画ワークシート (30分) 7 他のグループの話合いの途中経過を見て歩き、参考にする。(5分)	◎ボックスチャートの使い方を説明して、始めさせる。 =ボックスチャートの使い方= ○大きな箱は「個人が気になっていること」です。 自分で書いたふせんを貼ります。 ○真ん中の箱は「グループのみんなが気になっていること」です。 個人の意見をまとめて、書き込みます。 ◎一つ一つのグループを周りながら、話合いを見守り、必要に応じて声掛けを行う。 ◎個人探究の生徒も、周りの生徒と交流させながら、進めさせる。 ◎探究課題の設定の仕方について、確認をしてから始めさせる。 探究課題は、「～について、～のこと」で終わると単なる「調べ学習」になってしまいます。 「～を調べる!」のような動詞で終わる形にしてみよう! 「～は何か?」のような疑問形も Good! また、出来上がった探究課題が、下の条件をクリアしているか確認してみましょう! ☐自分たちが本当に「知りたい」「取り組みたい」と思うものになっていますか? ☐自分たちが取り組もうとしていることは、「誰か」「何か」のために役立ちますか? ◎一つにまとまらないグループには、教師が話合いのヒントとなるような声掛けをする。 ◎まだ課題が決まっていないグループも、現時点での途中経過を報告させる。 ◎今回決定した探究課題は、調べていく中で、少しずつ変わっていてもよいものだという事を伝える。 ・ワークシートを配布し、内容について確認し、始めさせる。 ◎次の時間まで、自宅でできる下調べなどはどんどん進めていてよいことを伝える。
--	--	--

終 末 5 分	8 本時の学習の振り返りを行う。 ○次の時間は、タブレット端末と図書室で情報の収集に入ります。 ○では、今日のまとめを振り返りシートに記入して下さい。	・振り返りシートを配付する。 ◎次時の指示を出し、見通しを持たせる。 ◎自分たちの学習の進み具合について把握させ、次は何をするのかについて学習の見通しを持たせる。	
------------------	--	--	--

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準
思考・判断・表現	大和町について、地域資源（自然・文化・歴史・人材・食・伝統工芸）を生かした取組や、携わる人々の思いから、地域の良さや町の課題を明らかにし、探究課題を設定している。

(5) 準備物

①教師：本時の目標，ワークシート（課題設定用，発表用，探究計画用），拡大図付箋（青色，赤色），マジックペン，マグネット

②生徒：総合用ファイル，筆記用具，第4時でまとめたワークシート，タブレット端末

(6) 板書計画

大和町よりよい町にするために，探究課題を決めよう！		
ボックスチャートの拡大図 探究課題のチェックの拡大図	各グループの探究課題 発表時の掲示スペース	今後の探究計画 (10～12月)の拡大図

(7) 本単元の学習と他教科の学習との関連

地理的分野 「地域調査の手法」 (指導時期：第2学年前期)
「地域の在り方」 (指導時期：第2学年後期)

学習日: R 年 月 日 [自然×セツ森]グループ 氏名

大和町をよりよい町にするために！ グループの探究課題を決めよう！

1(1)「大和町の現在について気になっていることや疑問に思っていること」を青色のふせん
に書きましょう。(第4時に書いたことを参考にしましょう。)

Aくん

Bくん

Cさん

セツ森には、
どのような
生き物が生
息してい
るの
かな。A



セツ森では、
どのような
昆虫を捕ま
えること
ができる
の
かな。B



セツ森で、絶滅
しそうな生
き物がい
ると聞い
たけど、ど
こで見
ることが
できる
の
かな。C



(2)「グループみんなが気になっていることや疑問」を確認しましょう。

セツ森には、
どのような
生き物が生
息してい
るの
かな。A

セツ森では、
どのような
昆虫を捕ま
えること
ができる
の
かな。B

例① セツ森の絶滅しそうな生き物はどのような種類があるの
かな。

例② セツ森の絶滅しそうな昆虫はどこで見付けること
ができるの
かな。

例③ セツ森のグンバイトンボはどのような環境に生息
しているの
かな。

セツ森で、絶滅
しそうな生
き物がい
ると聞い
たけど、ど
こで見
られるの
かな。
C

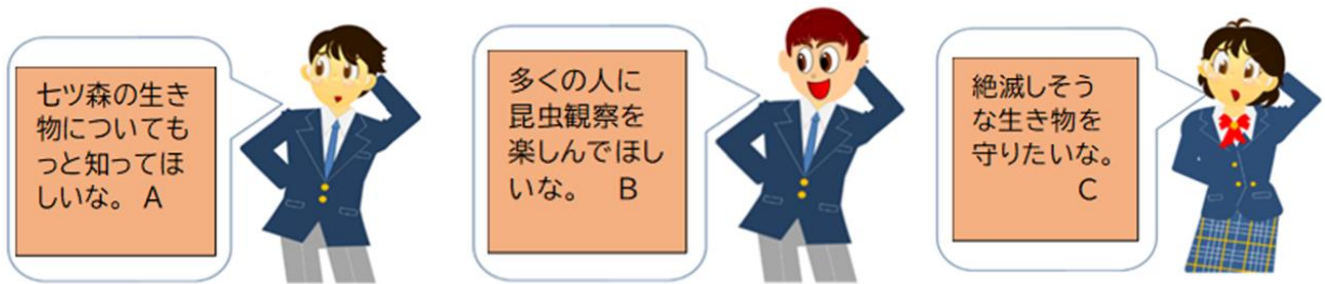
ボックスチャート

=ボックスチャートの使い方=

- 大きな箱は「個人の意見」をふせんに書いて貼ります。
- 真ん中の箱は「個人の意見」をまとめて、「グループみんなの意見」として、書き込みます。
- 探究する対象を「絶滅しそうな生き物」のように広めにまとめたり、「グンバイトンボ」のように焦点化してまとめたりすることができます。グループでよく話し合いましょう！



2(1)「大和町の未来についてこうだったらいいな、こうしたいなと思っていること」を赤色のふせんに書きましょう。



七ツ森の生き物についてもっと知ってほしいな。 A

生き物が生息する環境を守りたい。 A

例① 絶滅しそうな生き物の保護活動に取り組みたい。

例② 絶滅しそうな昆虫が見られる場所を知らせたい。

例③ グンバイトンボの生息する環境を守りたい。

多くの人に昆虫観察を楽しんでほしいな。 B

絶滅しそうな生き物を守りたいな。 C



(2)こうだったらいいな、こうしたいなという「グループみんなの願い」を確認しましょう。

3 1(2)「グループみんなが気になっていること」と、2(2)「グループみんなの願い」を組み合わせ、グループの探究課題を決めましょう。

例③七ツ森のグンバイトンボはどのような環境に生息しているのかな。

+

例③生息する環境を守りたい。

+

探究課題＝「解決したい問い」です。
 「どうしたら～？」「どうすれば～？」
 というような疑問文にしよう！

グループの探究課題

○良い例
 七ツ森のグンバイトンボが生息する環境を守るためにはどうしたら良いか？

×良くない例
 「七ツ森のグンバイトンボについて」「七ツ森のグンバイトンボのこと」

探究課題は、「～について、～のこと」で終わると単なる「調べ学習」になってしまいます。また、「インターネットで調べたら、すぐに答えが分かる」＝「浅い問い」。「直接誰かに聞かなければ分からない」「自分で行動を起こさないと分からない」＝「深い問い」です！「深い問い」を目指そう！

最後に、出来上がった探究課題が、下の条件をクリアしているか確認してみましょう！

☐ 自分たちが本当に「知りたい」「取り組みたい」と思うものになっていますか？

☐ 自分たちが取り組もうとしていることは、「誰か」「何か」のために役立ちますか？



学習日: R 年 月 日 [×]グループ 氏名

大和町をよりよい町にするために！ **グループの探究課題を決めよう！**

- 1(1) 「大和町の現在について気になっていることや疑問に思っていること」を青色のふせん
に書きましょう。 (第4時に書いたことを参考にしましょう。)
- (2) 「グループみんなが気になっていることや疑問」を確認しましょう。



ボックスチャート



= ボックスチャートの使い方 =

- 大きな箱は「個人の意見」をふせんに書いて貼ります。
- 真ん中の箱は「個人の意見」をまとめて、「グループみんなの意見」として、書き込みます。
- 探究する対象を「絶滅しそうな生き物」のように広めにまとめたり、「グンバイトンボ」のように焦点化してまとめたりすることができます。グループでよく話し合しましょう！

2(1)「大和町の未来についてこうだったらいいな、こうしたいなと思っていること」を赤色のふせんに書きましょう。

(2)こうだったらいいな,こうしたいなという「グループみんなの願い」を確認しましょう。



ボックスチャート

3 1(2)「グループみんなが気になっていることや疑問」と,2(2)「グループみんなの願い」を組み合わせて,グループの探究課題を決めましょう。

グループみんなが
気になっていることや疑問



グループみんなの
願い



探究課題＝「解決したい問い」です。
「どうしたら～?」「どうすれば～?」
というような疑問文にしよう!

グループの探究課題

探究課題は,「～について,～のこと」で終わると単なる「調べ学習」になってしまいます。また,
「インターネットで調べたら,すぐに答えが分かる」＝「浅い問い」。「直接誰かに聞かなければ分
からない」「自分で行動を起こさないと分からない」＝「深い問い」です!「深い問い」を目指そう!

また,出来上がった探究課題が,下の条件をクリアしているか確認してみましょう!

- ☐自分たちが本当に「知りたい」「取り組みたい」と思うものになっていますか?
- ☐自分たちが取り組もうとしていることは,「誰か」「何か」のために役立ちますか?



学習日: R 年 月 日 [自然 × 川]グループ 氏名

(例)

大和をよりよい町にするために グループの探究計画を立てよう！

STEP1 グループの探究課題を書こう！

大和町の自然の力をエネルギーとして活用する方法を探る！

STEP2 探究課題を設定した理由を書こう！

(この探究課題が気になったきっかけや理由。この探究課題がよりよいまちづくりにつながると考えた理由。)

エネルギー問題は今の社会にとって必要とされていて、大和町の川の力をエネルギーとして活用できれば、よりよい町になると考えたからです。

STEP3 課題を解決するために必要な情報について考えよう！

(どんなことを調べたら良いかを考える。)

- ・現在の大和町の電力はどこから来ているかについて
- ・大和町の自然資源で発電に活用できるものがあるかについて
- ・水力発電の仕組みや設備の建設方法について

STEP4 情報収集の方法について考えよう！

(どうやったら、何を使ったら調べたいことの答えが見つかるかを考える。)

- ・小学校6年生の理科の教科書、中学校3年生の科学の教科書
- ・インターネット
- ・大和町役場(インタビュー)
- ・電力会社(インタビュー)

STEP5 まとめ方を考えよう！

(自分たちの考えや思いを伝えやすいまとめ方を考えよう！)

- ・壁新聞、個人新聞
- ・ポスター
- ・スライド、動画 等

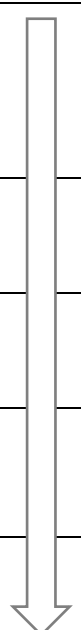
自分たちの力で無理なく取り組めるもので OK！

STEP6 最終ゴールをイメージしよう！

(自分たちの探究課題についてまとめたら、それをどうしたいか。)

資料にまとめたことを、町役場の方に見ていただきたい。

STEP7 探究計画を立てよう！

	日時	全体の探究スケジュール	グループの探究スケジュール	メモ
課題の設定	9/16 ⑤	オリエンテーション(1) ・国恩記について知る	 課題の設定からまとめ・表現まで、いつまでに何をしたら良いかという計画を自分たちで考えて見通しを持って活動しましょう！	
	9/30 ⑤⑥	オリエンテーション(2) ・講演会「大和町について学ぶ」		
	10/5 ⑤⑥	グループ分けに向けて ・個人の考えの記入 ・グループ分け		
	10/13 ⑤⑥	探究課題設定 「大和町をよりよい町にするために、探究課題を決めよう！」		
情報の収集	10/21 ⑤	情報の収集 ・図書室、インターネット	例)大和町の電力について、ネットを使って調べられる情報を集める。	
	10/21 ⑥	情報の収集 ・図書室、インターネット	例)ネットで調べられなかった情報を、誰に聞けば良いか調べる。	
	10/28 ⑤	情報の収集 ・インタビュー (電話, FAX, メール)	例)役場への質問項目をタブレット端末で作り、先生に点検してもらう。	
	10/28 ⑥	情報の収集 ・インタビュー (電話, FAX, メール)	例)準備ができたなら、役場への送り方について先生と相談する。	
整理・分析	11/10 ⑤⑥	整理・分析 ・集めた情報についての話し合い ・他グループとの情報交換	 例を参考にしながら、自分たちの探究の流れを計画していきましょう！	
まとめ・表現	11/17 ⑤⑥	まとめ・表現 ・資料作成		
	12/1 ⑤⑥	まとめ・表現 ・資料作成		
	12/8 ⑤⑥	まとめ・表現 ・学級発表会		
	12/15 ⑤	振り返り ・今回の学習について個人で振り返る		

学習日: R 年 月 日 [×]グループ 氏名

大和をよりよい町にするために **グループの探究計画を立てよう！**

STEP1 グループの探究課題を書こう！

STEP2 探究課題を設定した理由を書こう！

(この探究課題が気になったきっかけや理由。この探究課題がよりよいまちづくりにつながると考えた理由。)

STEP3 課題を解決するために必要な情報について考えよう！

(どんなことを調べたら良いかを考える。)

STEP4 情報収集の方法について考えよう！

(どうやったら、何を使ったら調べたいことの答えが見つかるかを考える。)

STEP5 まとめ方を考えよう！

(自分たちが詳しく調べたことや考えたことを分かりやすくまとめる方法を考えよう！)

STEP6 最終ゴールをイメージしよう！

(自分たちの探究課題についてまとめたら、それをどうしたいか。)

STEP7 探究計画を立てよう！

	日時	全体の探究スケジュール	グループの探究スケジュール	メモ
課題の設定	9/16 ⑤	オリエンテーション(1) ・国恩記について知る		課題の設定からまとめ・表現まで、いつまでに何をしたら良いかという計画を自分たちで考えて見通しを持って活動しましょう！
	9/30 ⑤⑥	オリエンテーション(2) ・講演会「大和町について学ぶ」		
	10/5 ⑤⑥	グループ分けに向けて ・個人の考えの記入 ・グループ分け		
	10/13 ⑤⑥	探究課題設定 「大和町をよりよい町にするために、探究課題を決めよう！」		
情報の収集	10/21 ⑤	情報の収集 ・図書室, インターネット		
	10/21 ⑥	情報の収集 ・図書室, インターネット		
	10/28 ⑤	情報の収集 ・インタビュー (電話, FAX, メール)		
	10/28 ⑥	情報の収集 ・インタビュー (電話, FAX, メール)		
整理・分析	11/10 ⑤⑥	整理・分析 ・集めた情報についての話し合い ・他グループとの情報交換		
まとめ・表現	11/17 ⑤⑥	まとめ・表現 ・資料作成		
	12/1 ⑤⑥	まとめ・表現 ・資料作成		
	12/8 ⑤⑥	まとめ・表現 ・学級発表会		
	12/15 ⑤	振り返り ・今回の学習について個人で振り返る		

振り返りカード

1年 組 番 氏名()

4・5	月 日	段 階			
	/	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
まとめ (学んだことや、進み具合など を書こう)					
次の時間にやること (次にやること、やるとよいと思 うことを書こう)					
ふり返り (今日考えたこと、次に向けて 考えていることなどを書こう)					
6・7	月 日	段 階			
	/	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
まとめ (学んだことや、進み具合など を書こう)					
次の時間にやること (次にやること、やるとよいと思 うことを書こう)					
ふり返り (今日考えたこと、次に向けて 考えていることなどを書こう)					

高等学校総合的な探究の時間（ひがまっプロジェクト）①指導計画

1 単 元 名 自己理解を深めよう

2 単元の目標

自ら疑問や問いを見だし、課題を解決することによって得られた知識や経験が、課題意識を持って探究してきたことの成果であると気付く。さらに、探究活動に、主体的に取り組もうとしている自分の良さに気付くとともに、他者の取り組みに関心を持ち、その活動を尊重しようとする態度を養う。

3 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①探究のプロセスを経ることが課題の解決に有効であることや他者との関わりから多様な考えがあることを理解している。 ②図書資料や ICT 機器などを活用し、探究活動を、目的や対象に応じて適切に実施している。 ③自分が疑問や問いを見だし、課題を解決することによって得られた事柄に関する理解が、自らの課題意識の中で探究してきたことの成果であることに気付いている。	①自らの興味・関心のある事柄に対して、疑問や問いを見だし、探究すべき課題を設定し、それを探究活動計画書に記載している。 ②図書室の本や ICT 機器を活用したり、観察や実験、体験したりすることから探究課題の解決に向け情報を収集し、収集した情報を適切な方法で蓄積している。 ③収集した情報を表やグラフにまとめたり、図に表したりすることによって整理し、それを比較・分類・関連付けしながら、分析できている。 ④相手や目的に応じて分かりやすくポスターにまとめ、表現することができている。	①自分の興味・関心のある事柄の中から設定した課題の解決に向け、その活動に取り組もうとしている自分の良さに気付くとともに、同じく活動しようとしている他者の活動を尊重しようとしている。 ②自らが設定した課題の探究活動に、見通しを持ち計画的に取り組むとともに、他者の取組に関心を持っている。 ③探究を通して、自己の在り方・生き方を考えるとともに、身につけた探究の方法をこれからの人生で活用しようとしている。

(2) 単元の全体計画 (28 時間扱い 本時 13・14/28)

段階	時	小単元名	学習活動	評価規準			評価方法
				知	思	態	
課題の設定	1 ・ 2	1 探究したい課題を設定しよう。(8 時間)	・「ひがまつプロジェクト (総合的な探究の時間)」の学習内容について知る。 ・教師が作成した成果物・発表の例を視聴することによって、どのような成果物を作成し、発表を行うことになるか見通しを持つ。 ・ウェビングマップなどの思考ツールを使って、探究課題のテーマを決定する。	①	①		ワークシート、振り返りシート
	3 ・ 4		・前時に引き続き、探究課題のテーマを決定する。 ・課題解決のテーマについて、どのように探究活動を行うか、探究活動計画書にまとめるとともに、活動に見通しを持つ。		①		探究活動計画書、ワークシート、振り返りシート
	5 ・ 6		・前時に引き続き、課題解決のテーマについて、どのように探究活動を行うか、探究活動計画書にまとめる。 ・HR で探究活動計画書を発表する準備・練習をする。		①		探究活動計画書、ワークシート、振り返りシート
	7 ・ 8		・HR で探究活動計画書の発表をする。 ・各自の発表について、探究するテーマや手法についての意見や感想を用紙に記入する。 ・自分の発表に関する意見・感想を確認し、今後の探究活動の方向性について修正する。		①	①	観察、探究活動計画書、意見・感想記入用紙、振り返りシート
情報の収集	9	2 課題解決に向け、情報を収集しよう。(6 時間)	・探究課題解決のための情報の収集のため PC 室の PC や生徒用タブレット端末、各自の ICT 端末、図書資料などを活用したり、または、観察、実験したりすることを知る。 ・PC 室の PC や生徒用タブレット端末などの使用するためのルールを知る。 ・他人の文章や写真などを使用する場合は、著作権や肖像権など配慮しなければならないことがあることを理解する。	②			ワークシート、振り返りシート
	10 ・ 11 ・ 12		・PC 室の使用、タブレット端末の活用、各自の ICT 端末、図書館などを利用し、情報を収集する。 ・必要に応じて、観察・実験等を実施し、情報を収集する。 ・写真や文書の保存は、クラウド利用する。 ・メモなどの紙媒体で保存する情報は、総合的な学習の時間用のリングファイルに保存する。 ・次の時間はHR 内でグループを組み、グループ内で収集した情報や情報の収集の方法について良かったことや困っていることについて知る。	②	②		振り返りシート、ワークシート

	13 ・ 14 本時		・HR 内でグループを組み、グループ内で収集した情報や情報の収集の方法について良かったことや困っていることについて役割を決めて受け答えすることによって情報を共有する。 ・グループ内で共有した情報を踏まえて、情報の収集を再開する。 ・インターネット（PC 室の P C，生徒用タブレット端末，各自の ICT 端末）や書籍（図書館，個人のもの）などを利用し，情報を収集する。 ・必要に応じて，観察・実験等を実施し，情報を収集する。 ・写真や文書の保存は，クラウドを利用する。 ・メモなどは総合的な学習の時間用のリングファイルに保存する。	②	②		振り返りシート，ワークシート
整理・分析	15 ・ 16	3 収集した情報を比較したり，分類したりして，どのようなことが検証できるのか，考えよう。（4 時間）	・情報を分析するに当たり，思考ツールを利用したり，図やグラフにしたりする。 ・収集した情報の比較，分類，関連付けなどを行い，自分なりに課題解決における結論を導く。	②	③		ワークシート，振り返りシート
	17 ・ 18		・情報を分析するのにあたり，思考ツールを利用したり，図やグラフにしたりする。 ・収集した情報の比較，分類，関連付けなどを行い，自分なりに課題解決における結論を導く。	②	③		ワークシート，振り返りシート
まとめ・表現	19 ・ 20	4 学習の成果をまとめ，各 HR 内で発表したり，各 HR 教室にポスターを掲示したりすることで発表しよう。（8 時間）	・課題解決の成果をどのような項目ごとにまとめるのか，教師の作成した例などを参考にしながら，ポスターを作成する。 ・各 HR 教室で発表する準備・練習をする。		④		ポスター，振り返りシート
	21 ・ 22		・各 HR 教室で作成したポスターを使って，探究した内容について発表をする。 ・自分の発表に関する意見・感想を確認する。 ・自分の発表に関する意見・感想を確認し，必要があれば手直しをする。	③	④	②	ポスター，ワークシート，振り返りシート
	23 ・ 24		・前時に引き続き，ポスターの手直しを行う。 ・模造紙にポスターを貼付し，次時に各教室で掲示して発表できるように準備する。		④		ポスター，振り返りシート
	25 ・ 26		・各 HR 教室にポスターを貼付した模造紙を張り出す。 ・各教室を巡り，各 HR 教室にポスターが貼られているのを見学し，自分が興味を引かれた発表や内容が良かった発表についてワークシートに理由などを書き込み，提出する。	③	④	②	ワークシート，振り返りシート
振り返り	27 ・ 28	5 今年度の活動について振り返り，次年度の活動について見通しを持とう。（2 時間）	・これまでの活動を振り返るとともに，自分が探究を通して身に付けたこと，高まったこと，深まったこと，伸びたことを記述するとともに，学習活動を通して得た新たな問いや考えなどをワークシートにまとめる。 ・次年度の活動について，教師からの説明などから見通しを持つ。			③	ワークシート，振り返りシート

ひがまっプロジェクト① 13・14 時間目／28 時間の授業展開について（11 月 4 日）

○指導に当たって

本時では、前時までに収集した情報や情報の収集・蓄積の方法について、グループ内で共有することにより、生徒に多様な考えや異なった考え、情報収集・蓄積の方法を理解させるとともに、それを踏まえた情報の収集・蓄積に引き続き取り組ませることを指導の内容とする。情報の収集の過程において、協働的な学びの機会を設定し、多様な情報や異なった考えに触れさせることを目的に本時の前半の学習内容を設定している。

（1）本時の目標

- ・グループ内での情報交換を通して、各々が収集した情報や情報の収集・蓄積方法の多様性を認め、それぞれに違いがあり、個別の良さをもっていることを理解する。
- ・探究課題の解決に向け情報を収集したり、収集した情報を適切な方法で蓄積したりできるようにする。

（2）本時の評価規準

- ・グループ内での情報交換を通して、各々が収集した情報や情報の収集・蓄積方法の多様性を認め、それぞれに違いがあり、個別の良さをもっていることを理解している。
- ・探究課題の解決に向け情報を収集したり、収集した情報を適切な方法で蓄積したりしている。

（3）指導過程（13・14 時間目／全 28 時間）

段階	主な学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (5 分)	1 本時の目標及び学習活動を確認する。(10 分) (1) 本時の目標を確認する。	■各教室で、担任と副担任、学年主任が指導を行う。	
	・グループ内で情報や情報の収集・蓄積の方法を共有する。 ・情報の収集に引き続き取り組む。 (2) 学習活動を確認する。 ①グループを組み、そのグループ内で集めた情報や情報の収集・蓄積の方法について共有する。 ②情報の収集・蓄積の学習活動に取り組む。	◎グループ内で集めた情報や情報の収集・蓄積の方法について共有するため、3 人ほどのグループを作ることを確認させる。 ◎グループ活動の後、情報の収集・蓄積することを確認させる。	
展開 (75 分)	2 情報の収集 (1) 情報を共有する。 ①探究のテーマに関して収集した情報やその情報の収集や蓄積の方法についてワークシートにまとめる。 ②同じ教室のメンバーで 3 人ほどのグループを作り、グループでワークシートにのっとり一人一人が探究課題の解決に向け、収集した情報を発表し合う。	◎探究のテーマに関して収集した情報や情報の収集や蓄積の方法について、まとめやすいようにワークシートを使用させまとめさせる。 ◎生徒各自の情報の収集が本時の後半や次時まで円滑に進むようにするために、収集した情報や情報の収集で良かったことや困っていること、情報の収集・蓄積方法に関することについて、グループ内で情報を共有し、困っていることに関しては意見の交換を促す。	ワークシート（知識・技能）

	③順番で役割を交代し、それぞれの役割を全員で経験する。 (2) 情報を収集する。 ①前時に引き続いて情報の収集を行う。情報の収集は各自の探究テーマについて行う。ワークシートを引き続き使用する。 ②情報の収集が上手に進まない場合は、級友や教師に相談する。	◎グループでの活動が進んでいない場合は、教師が順番や活動内容を確認するなど言葉掛けを行う。 ◎情報の収集を進めるために、生徒用タブレット端末や各自の ICT 端末などを使用したり、図書資料を利用させたりする。また、必要に応じて観察や実験、インタビューなどを行わせる。 ◎「調べ学習」にならないためにも、できるだけ、2次情報だけの収集にならないようにさせる。 ◎生徒の情報収集に対する視点は限定的であると考えられるので、多様な視点に立って情報の収集ができるように教師は各生徒の活動状況に応じて、言葉掛けを行い、必要に応じ助言する。	ワークシート（思考・判断・表現）
終末 (10分)	3 本時のまとめ (1) 活動内容の確認 本時の活動で分かったことを、各自確認する。 (2) 次時の見通し。 次の時間以降の学習活動の予定について確認する。 (3) 本時の振り返り。 振り返りシートに本時を通して分かったことや考えたこと、次の時間に向けて考えたことを記入する。	◎各自、記録した媒体から、本時で分かったことを確認させる。 ◎今後の自分の探究活動について自分で考えさせるため、リングファイルの探究活動計画書の全体スケジュールに自分の探究活動を照らして、今後のスケジュールを考えさせる。 ◎今日の授業の学びの手応えを生徒自身に気付かせるため、振り返りシートに各自記入させる。	ワークシート, 振り返りシート

○情報の収集 発表用ワークシート

学籍番号

氏名

●ワークシートについて

- 1 (1)～(5)の項目についてまとめる。
- 2 グループ内で(1)～(5)の項目についてお互いに発表し合い、ペアを組んだ人と情報を交換する。
- 3 ペアを組んだ人の発表を聞いて、自分のこれからの探究活動に生かせそうなことを書き出す。

(1) 探究活動のテーマ

(2) 情報の収集の方法

(3) 情報の収集で新たに知ったこと

(4) 情報の収集で困ったこと

(5) これから調べようと思っていること

・発表を聞いて、自分のこれからの情報の収集などの探究活動に生かせそうなことを書き出してみよう！！

【 ひがまつプロジェクト 】

No.

振り返しシート

年次 氏名

[illegible]